

会 議 録

第 1 0 回定例会

開会 令和 7 年 9 月 1 6 日

教育委員会会議録

1 開 会 令和7年9月16日 午前10時

2 閉 会 令和7年9月16日 午前11時10分

3 教育委員会出席者

教育長	中川 斉史
委 員	島 隆寛
委 員	岡本 弘子
委 員	横田 賢二
委 員	糸井 恵理
委 員	武田 國宏

4 教育長及び委員以外の出席者

副教育長	松本 光裕
教育次長	海老名 正規
教育次長	眞梶 秀也
教職員課長	井利元 裕哉
高校教育課長	金岡 由岐子
特別支援教育課長	中山 登
教育政策課長	地面 浩
教育政策課副課長	櫻木 大介

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

教育長 議案第31号及び報告事項1を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項3 第1回徳島県特別支援学校の教育環境に関する検討会議の概要について》

教育長 報告を求める。

特別支援教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

横田委員：児童生徒が増加しているのは、日本全体の傾向か。

特別支援教育課長：全国的に増加傾向にある。特に、知的障がいのある子供が増加傾向にある。

横田委員：全国的に、このような検討会議がどのような比率で行われているのかのデータはあるか。

特別支援教育課長：そこまでのデータは持ち合わせていない。

糸井委員：特別支援学校の教員になりたいと希望する人は、大学で学ぶことや、中学や高校生のときの職場体験など、目指すきっかけになるような機会はあるのか。

特別支援教育課長：特別支援教育に携わる教員を目指すきっかけは多様である。人材確保については、高校生を対象にしたインターンシップによる体験を実施するなど、とにかく特別支援教育を見ていただ

く、知っていただく、触れていただく機会を大事に取り組んでいる。

糸井委員：池田支援学校美馬分校で取り組んでいるみまカフェでは、地域の方だけではなく、他校の子供たちとの交流の機会もあるのか。

特別支援教育課長：近隣の特別支援学級の児童生徒や先生にも来校いただく等、交流の機会となっている。

糸井委員：みまカフェのような取組は、他校にもはあるのか。

特別支援教育課長：カフェのような取組は、池田支援学校美馬分校のみの取組となっている。今後、国府支援学校にもカフェを整備し、地域との交流を深めていく予定である。また、地域に出向き、地域の方と交流する活動は、多くの特別支援学校で実施している。こういった活動を起点に地域との交流を深めている。

岡本委員：特別支援学校に限らず、特別支援学級でも人材不足は厳しい状況であると思う。教員養成段階で特別支援教育を学ぶ機会を充実させていかなければならないと思う。また、他校種から特別支援学校への異動を機会として、学び合うということも人材確保の視点でいうと大事なことであると思う。

特別支援教育課長：今後の検討会議の中でも、そういった視点の御意見を大事にしたい。

武田委員：教員も多様化しているという、この多様化という言葉の意味を教えてほしい。

特別支援教育課長：働き方という側面でいうと、休日を使って研修会に参加し研鑽を積まれている先生や、公私を分けて休日はしっかり休む先生もいる。また、子育て等を含めて、時短勤務の先生もいる。学校で全員が集まり研修をする時間を確保することが難しくなっている。このような状況を含めて、多様化という言葉で表現している。

武田委員：特別支援学校だけの課題ではない。企業と比べると主体的に自分から研修しようとする態度について教員は低いと感じる。デジタル化された研修が進んでいるのか、進んでいないのか。人材不足の中、全員が集まって研修するのは、非合理的な時間の使い方である。デジタル化が進む中、特別支援学校ではそういった研修が進んでいるのか。

特別支援教育課長：生活スタイルに合わせて、時間がとれるときに視聴できるオンデマンド型の研修に取り組んでいる学校がある。

武田委員：自分のことで精一杯というのは、どこの職場でも同じことである。これは、子供に関わる時間が多くて精一杯なのか、事務処理に時間を取られて精一杯なのか教えてほしい。また、仮に事務処理に時間を取られているのならば、ここもデジタル化がどのくらい進んでいるのか教えてほしい。人がいないのはどこも同じ、無駄を省くデジタル化や職員一人一人のスキルを向上し生産性を上げることに取り組むべきであると思う。

特別支援教育課長：子供に関わる時間と事務処理の時間という2つの要素がからみあっていて、時間が足りないというのが正直なところである。個別の指導計画の作成などの事務処理に時間を要しているところはある。検討会議の委員の中に、学校の先生もいるので、情報をいただきながら検討したい。また、校務のデジタル化については、現在校務支援システムを新たに検討していくような動きもある。事務処理の時間を削減できるように期待している。

武田委員：特別支援教育に限らず、小中学校も同様に、クリエイティブなカリキュラムをつくっている方は、クリエイトすることに時間を割いている。本来はゼロからつくるというよりは、データベースの活用、AIを活用してより効率的なものを選んで、教材化し使うことを進めるべきである。何をどう改善すれば、忙しくなくなるのか。先生方の意識改革が必要である。

特別支援教育課長：先生方が少しでも働きやすくなるように進めていきたい。

島委員：保護者の方が療育手帳をとるかとらないかで、悩むことがあると思う。学校の先生が適切にアドバイスできるように考えていただければと思う。

特別支援教育課長：スクリーニングが機能してきたこともあり、療育手帳を取得している方が増え、取得する年齢も下がってきている。メリット・デメリットを伝えていくことは、将来につながることで非常に大事である。学校だけで分からないことは、関係機関につなぐことも大事である。特別支援教育の巡回相談員が各学校のサポートに入っており、活用いただきたい。

教育長：今年度から小中高特別支援学校すべての先生方が県域アカウントを持っている。研修を受けるときに、グループを作って、一度の研修で終わるのではなく、事前や事後に意見のやりとりがオンラインでできるプラットフォームを整えている。また、県域アカウントでAIを使えるようになっている。事務局で積極的に活用し、現場にも広げていきたい。

武田委員：実際に、小中学校でも活用しているのか。

教育長：県域アカウントは持っているので、使える状況にはなっている。
どうやって使うのかはこれからである。急ぎ進めている。

《報告事項 2 令和 7 年 3 月県内高等学校卒業生の進路状況について》

教育長 報告を求める。

高校教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：地方では、若者が県外に流出している。徳島県に若者を残す、あるいは帰ってきてもらうために、県外の大学へ進学した人たちがその後、どこへいったかを把握することも考えられる。島根県では、同窓会名簿を有効活用している。また、岩手県では、SNSを利用して繋がりを意識しているようである。県全体で連動して考えていかなければならないと思う。

岡本委員：生徒は、県内の大学へ進学することも大事だが、広い世界に出て、色々な経験をして学ぶことも大事である。有名国公立大学への進学が目的だけでなく、課題意識を持って、大学へ何を学びに行きたいのかが大事だと思う。学んできたことを、徳島に色々な形で返せるような児童生徒を育てていくことが大切であると思う。

武田委員：キャリア教育については、高校は社会に開かれた教育課程の中、総合的な探究の時間や特別活動の時間等が活用されている。一方で徳島県の職場に魅力がないという声がある。例えば、関東地方や近畿地方の大学に進学した生徒たちが、将来徳島に帰ってきて就職しようとしたとき、徳島の企業が魅力的だということを学ぶ機会がなければ帰ってこないと考える。高校時代にそのような機会はあるのか。

高校教育課長：県教委としては、徳島県の企業の魅力を高校生に伝えるような機会を設けている。例えば、年に 1 度、高校生を対象に企業見学バスツアーを開催しており、今年も 8 月上旬に実施した。高校生からは、地元企業の良さを知る機会として、好評である。

武田委員：知事は蓄電池をメイン産業にするなど、色々な構想を出しているが、理系人材の育成についても並行して実施しているか。

高校教育課長：例えば、徳島バッテリーバレイ構想において、高校生は蓄電池を製造している工場の見学に参加している。また、蓄電池の仕組みやそ

の応用方法などを学ぶ機会を設けている。

糸井委員：大きな企業だけでなく、小さな職場などについても紹介をする機会はあるか。

高校教育課長：企業見学バスツアーでは、地元に関差した企業への見学を実施している。

糸井委員：小さな職場では、職場の内容を知ってほしいと思いつつ、インターンシップ等を受け入れる余裕や準備をすることが困難である。そのような企業との繋がりや接点があれば良いと考える。

[非公開]

《議案第 3 1 号 令和 8 年度使用高等学校用教科用図書の採択を教育長の臨時代理により変更したことの承認について》

《報告事項 1 令和 8 年度徳島県公立学校教員採用候補者選考審査第 2 次審査結果について》

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午前 1 1 時 1 0 分